

平成二十九年度 長野県上田高等学校 入学式 校長式辞

ここ数日、穏やかな陽気が続き、本校正門である古城の門からこの第一体育館へとつながる通路には、あんずの花が、今日のこの日を祝うかのように咲きました。学校周辺の桜の蕾もほころび始め、この学び舎に、花々が春の彩りを添える日も間近だと感じさせます。

本日、日頃から本校に格段のご高配をいただいておりますご来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に平成二十九年度長野県上田高等学校入学式を挙行できますこと、誠にありがたく、まずもって厚く御礼を申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまで陰になり日向になり育てて来られたお子様が、義務教育を終えて晴れの高校入学を迎え、感慨もひとしおかと拝察いたします。

さて、只今入学を許可いたしました、全日制三百二十二名、定時制三十四名の新入生のみなさん、本校へのご入学、おめでとうございます。

本校は、千九百年、明治三十三年、長野県上田中学校として独立した年を、学校の歴史のスタートに位置付けています。以来、今年で百十八年目となる、歴史と伝統を有する学校です。

昨年、NHK大河ドラマ『真田丸』の放映にあわせて、本校が何度もメディアに取り上げられましたが、これは、『真田丸』の主人公、真田信繁幸村の兄、信之が、現在本校が位置する場所で、江戸時代の初代上田藩主として執務を行っていたことや、江戸時代の藩主居館の表門を現在も正門として使用していること、校歌や応援歌などに真田家を歌った歌詞が多く使われていることなどによるものです。また、世界で初めて人口癌実験に成功し、ノーベル賞に四度ノミネートされた、上田高校の前身である上田変則中学校出身の山極勝三郎博士を主人公にした「うさぎ追いし～山極勝三郎物語」が同じく昨年映画化され、注目を集めたところでもあります。

こういったことに加え、本校は、文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクールや長野県二十一世紀型教育モデル校、県教育委員会のICTを活用した確かな学力育成事業などの指定を受けるとともに、東京外国語大学との高大連携協定や台湾国立苗栗高級中学と姉妹校協定を締結するなど、長野県をリードする、先進的な教育を行っている高校としても知られているところです。

さて、入学生の皆さん、このように、本校は、学びのための様々な環境が整っていますが、高校で、何よりも大切なのは、皆さんの主体性です。ともすれば中学までは当たり前だったかもしれない、与えられたり指示されたりするのを待つ、という姿勢から一日も早く脱却し、

自分の意志や判断で積極的に物事に取り組む姿勢を身に付けてほしいと思います。同じ環境で、同じ教材を使い、同じ授業に参加したとしても、その意欲や集中力、学びに向かう姿勢などによって、一人ひとり、学びの濃さは異なります。その差が毎時間、毎日積もれば、大きな差となって現れます。我々にはみな等しく一日であれば二十四時間という同じだけの時間が与えられていますが、その中身をどれだけ充実したものにするかは、その人の考え方や姿勢によって決まります。同じ時間、高校生活を送るとしても、皆さんには、より強い学び、より深い学びを行ってほしいと考えていますが、そのためには、学びに向かう強い意欲、モチベーションが必要であり、さらにそのためには、何のために自分は学ぶのかという明確な学びの目的が必要だと考えます。

私は、学ぶ目的も、人生の目的も、同じだと考えています。

その目的は大きく言って二つあると思います。一つは自分自身の人生をより豊かで、よりよいものにするため。もう一つは、自分が暮らす社会をよりよいものにするにより、自分以外の人々や自分自身に幸福をもたらすためだと考えます。どうしたら幸せになれるか、どうしたらよりよい社会が創れるか、その手段、方法は十人十色、みんな違うかもしれませんが、違っているからこそいいのだと思いますが、一人ひとりが、その具体的な手段や方法を、リアルな実感を持ってイメージできるか否かが、学びの強さを決定付けると考えています。

大学に入学することも、仕事をする 것도、目的ではなく、手段です。大学での学びや仕事は、その先にある、自分がいかに幸福になるか、どのようにしてよりよい社会を創るかに繋がっています。

学びとは、「いま」はもちろん、「これから」のために行うものです。

皆さんには、ぜひとも、他の人のものまねでない、自分自身が学ぶ具体的な目的を明確に持ち、より強く、より深く学んでほしいと思います。

皆さんは、これから毎日、本校のシンボルである古城の門をくぐって登校し、3年間、あるいは4年間を本校で送ることになります。授業をはじめ、様々な活動を通じて、様々なことを学んでいきますが、その中には、本校の伝統である「文武両道」「自学自習」の精神や、校歌に歌われている「いざ百難に試みむ」という「真田魂」ともいべきもの、あるいは、高い志、豊かな感性といったことも含まれています。これからの時代に必要となる広い視野や、様々な現代的課題を解決できる力も身に付けてほしいと思っています。

入学生の皆さんの、これから本校で過ごす日々が、皆さんの輝ける未来に向けた希望を育むものであること、皆さんを大きく成長させるものであることを願って、式辞といたします。

平成29年4月6日
長野県上田高等学校長 内堀繁利